

報告事項 3

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成29年度第1回）

について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成29年6月6日

高等学校教育課

(別紙)

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議
(平成29年度第1回)

- 1 日 時 平成29年5月17日(水)
午前9時45分から午前11時45分まで
- 2 場 所 愛知県本庁舎 正庁
- 3 議 長 中京大学現代社会学部長 むら かみ たかし
村 上 隆
- 4 本年度の諮問事項
全日制課程の一般選抜における追検査について
- 5 会議の結果
 - (1) 諮問事項について専門員会に付託した。
 - (2) 平成29年7月下旬を目途にまとめを行うこととなった。

諮問事項

全日制課程の一般選抜における追検査について

○ 諮問理由

本県の公立高等学校（全日制課程）の入学者選抜制度は、平成25年度の本協議会議のまとめに基づいて次の三点を柱とした変更を行い、平成29年度入学者選抜から新しい制度により実施することとなった。

- (1) 中学校3年生の3学期により落ち着いた学習環境を確保するため、2月中旬に実施していた推薦選抜等を3月上旬の一般選抜の日程の中に組み込んで、入試日程を大幅に短縮する。なお、これに伴い、推薦選抜等で合格とならなかった者を一般選抜の対象とするため、推薦選抜等の志願者にも一般選抜の学力検査を受検させる。
- (2) 子どもたちが将来の進路希望に応じてより身近な地域で高等学校を選択できるようにするため、群及びグループ分けを一部見直す。特に三河学区については、1群と2群を一つにまとめ、高等学校の組み合わせの自由度を大幅に高める。
- (3) 中学校での学習の成果をよりの確に評価できる学力検査とするため、思考力、判断力、表現力等をこれまで以上に測ることができる出題とする。

この新制度では、学力検査の翌日に、一般選抜受検者の面接に加えて推薦選抜受検者の面接も行うため、従来同日に一般選抜の面接と並行して行ってきた「追検査」の実施が難しくなることから、「追検査」に代えて、従来から行っている学力検査当日の「別室受検」をより柔軟に適用する改善を図り、今春の入学者選抜を実施した。

しかし、「別室受検」の柔軟な適用では救済しきれないケースがあること、また、中学生が自己実現を図っていく上で大きな意味をもつ高等学校入学者選抜においては、急病等のやむを得ない理由で学力検査当日に受検できない場合にも、受検機会を十分に確保するよう強く求める意見があることから、全日制課程の一般選抜における追検査について改めて検討する必要がある。

平成29年度愛知県公立高等学校入学者選抜の実施結果

※ () 内は平成28年度入学者選抜の数値。ただし、制度の変更に伴い、単純に比較することが難しい数値についても、参考として記載している。

〈 全 日 制 課 程 〉

1 一般選抜及び推薦選抜等

(1) 募集人員 44,474 人 (34,707 人)

※ 連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜の合格者を除く。

(2) 志願者数

志願者総数 (第1志望者数と第2志望者数の合計) 85,938 人 (69,304 人)

志願者実数 (第1志望者数) 47,866 人 (38,300 人)

2校志願者 38,072 人 (31,004 人) (志願者実数の 79.5 % (81.0 %))

1校志願者 9,794 人 (7,296 人)

(3) 倍率

募集人員に対する倍率 1.93 倍 (2.00 倍)

実質倍率 (志願者実数による倍率) 1.08 倍 (1.10 倍)

(4) 学科別の志願者数等

学 科	募集人員	第 1 志望者数	内 推薦選抜等		第 2 志望者数	志 願 者 総 数	倍 率	昨年 倍率
			推	海				
普 通	30,861人	33,163人	推	5,796人	28,379人	61,542人	1.99	1.98
			海 34	外国 25				
農 業	1,253	1,223	推	500	715	1,938	1.55	1.73
工 業	4,400	5,124	推	1,632	3,462	8,586	1.95	2.27
			推	1,522	2,903	6,526	1.75	1.75
			推	467	523	1,520	1.58	1.94
家 庭	960	997	推	467	523	1,520	1.58	1.94
福 祉	160	121	推	61	98	219	1.37	1.46
水 産	160	201	推	114	91	292	1.83	2.29
音 楽	80	88	推	74	59	147	1.84	1.27
美 術	40	80	推	47	1	81	2.03	2.04
看 護	80	102	推	45	11	113	1.41	2.19
理 数	40	94	推	36	2	96	2.40	3.54
体 育	120	130	推	88	19	149	1.24	1.35
外 国 語	40	58	推 15	海 4	57	115	2.88	4.26
国際教養	160	223	推 70	海 27	54	277	1.73	2.11
総 合	2,400	2,639	推	1,155	1,698	4,337	1.81	2.24
合 計	44,474人	47,866人	推	11,622人	38,072人	85,938人	1.93	2.00
			海 65	外国 33				

※ 表中の「推」は推薦選抜、「海」は海外帰国生徒にかかる入学者選抜、「外国」は外国人生徒及び中国帰国生徒等にかかる入学者選抜をそれぞれ示す。

(5) 倍率の高い学校・学科数

4倍以上 0校0学科 (4校4学科)

3倍以上4倍未満 2校2学科 (11校15学科)

(6) 倍率が1倍に満たない学校・学科数 1校2学科 (2校3学科)

(7) 志願変更者数 83人 (82人)

(8) 学力検査当日の欠席者数

Bグループ 218人 (251人)

Aグループ 240人 (250人)

(9) やむを得ない理由により学力検査当日の実施日程を変更して受検した者の数

Bグループ 27人

Aグループ 8人

(10) 学科別・志望順位別の合格者数等

学 科	第1志望 合格者数	第2志望 合格者数	合 計	第1志望 合格者の 占める割合	昨 年 の 第1志望合格者 の占める割合
普 通	23,267人	7,236人	30,503人	76.3%	72.7%
農 業	1,097	106	1,203	91.2	87.3
工 業	3,910	485	4,395	89.0	81.6
商 業	3,260	383	3,643	89.5	80.7
家 庭	879	55	934	94.1	87.2
福 祉	120	16	136	88.2	87.5
総 合	2,148	252	2,400	89.5	83.1
そ の 他	657	53	710	92.5	87.7
合 計	35,338人	8,586人	43,924人	80.5%	75.0%

※ 第2次選抜の合格者数は含まない。

(11) 推薦選抜の学科別合格者数等

学 科	募集人員 (A)	志願者数	合格者数 (B)	B/A ×100	昨 年	
					志願者数	合格者数
普 通	30,861人	5,796人	4,099人	13.3%	6,491人	4,504人
農 業	1,253	500	485	38.7	570	516
工 業	4,400	1,632	1,473	33.5	1,781	1,582
商 業	3,720	1,522	1,398	37.6	1,752	1,576
家 庭	960	467	415	43.2	564	446
福 祉	160	61	61	38.1	82	70
水 産	160	114	78	48.8	119	80
音 楽	80	74	33	41.3	64	39
美 術	40	47	14	35.0	39	14
看 護	80	45	32	40.0	63	38
理 数	40	36	12	30.0	47	12
体 育	120	88	60	50.0	74	60
外 国 語	40	15	15	37.5	18	16
国際教養	160	70	57	35.6	96	63
総 合	2,400	1,155	1,027	42.8	1,333	1,100
合 計	44,474人	11,622人	9,259人	20.8%	13,093人	10,116人

(12) 海外帰国生徒にかかる入学者選抜

学 校	学 科	定 員	志願者数	合格者数	昨 年	
					志願者数	合格者数
県立中村高等学校	普 通	36人程度	3人	3人	1人	1人
県立豊田西高等学校	普 通	36	14	14	34	34
県立刈谷北高等学校	普 通	40	15	15	12	12
県立豊橋東高等学校	普 通	32	2	1	5	5
県立千種高等学校	国際教養	24	27	24	18	17
市立名東高等学校	国際英語	12	4	4	6	5
合 計		180人程度	65人	61人	76人	74人

※ 定員は、この選抜において合格者を決定できる人数である。

(13) 外国人生徒及び中国帰国生徒等にかかる入学者選抜

学 校	学 科	定 員	志願者数	合格者数	昨 年	
					志願者数	合格者数
県立名古屋南高等学校	普 通	若干名	4人	3人	6人	3人
県立小牧高等学校	普 通	若干名	6	4	5	4
県立東浦高等学校	普 通	若干名	1	1	5	2
県立衣台高等学校	普 通	若干名	5	4	10	6
県立安城南高等学校	普 通	若干名	7	4	2	2
県立豊橋西高等学校	普 通	若干名	2	2	6	3
県立豊田工業高等学校	工 業	若干名	0	0	2	1
県立豊川工業高等学校	工 業	若干名	1	1	1	1
県立中川商業高等学校	商 業	若干名	7	4	6	2
合 計		—	33人	23人	43人	24人

(14) 合格後の辞退者数 20 人 (16 人)

2 第2次選抜

募集人員 36 校 44 学科 555 人 (32 校 1 校舎 39 学科 421 人)

志願者数 25 校 28 学科 139 人 (21 校 1 校舎 26 学科 158 人)

合格者数 136 人 (145 人)

3 欠員数 420 人 (280 人)

4 合格者の成績

(1) 学力検査得点の平均 (満点110点) (昨年の満点100点)

Bグループ 63.9 (58.1)

Aグループ 63.7 (56.8)

(2) 調査書評定の平均 (最高45)

Bグループ 31.6 (31.2)

Aグループ 31.4 (31.4)

5 連携型中高一貫教育校にかかる入学者選抜

学 校	学 科	定 員	志願者数	合格者数	昨 年	
					志願者数	合格者数
県立新城東高等学校 作 手 校 舎	人と自然	40人	8人	8人	4人	4人
県立田口高等学校	普 通	40	19	19	18	18
	林 業	40	19	19	17	17
合 計		120人	46人	46人	39人	39人

※ 定員は、この選抜において合格者を決定できる人数である。

〈 定 時 制 課 程 〉

1 志願者数等

(1) 募集人員・志願者数・合格者数

募集人員 2,040 人 (2,040 人)
 昼間 720 人 (600 人)
 夜間 1,320 人 (1,440 人)

前期選抜	昼 夜	前期選抜 定 員 枠	志願者数	合格者数	昨 年	
					志願者数	合格者数
	昼 間	8 割程度	866人	644人	776人	539人
	夜 間	7 割程度	969	790	988	845
	合 計	1,500人程度	1,835人	1,434人	1,764人	1,384人

後期選抜	昼 夜	後期選抜 募集人員	志願者数	合格者数	昨 年	
					志願者数	合格者数
	昼 間	78人	141人	71人	130人	58人
	夜 間	530	337	294	313	277
	合 計	608人	478人	365人	443人	335人

※ 夜間定時制課程において、志願状況により、後期選抜の募集人員に各高等学校・学科における総募集人員の5%までの人員を加えて合格者を決定できることとした。その結果、4校で5人を合格者として決定した。

(2) 募集人員に満たなかった学校・学科

前期選抜 18 校 19 学科 (17 校 18 学科)
 後期選抜 20 校 21 学科 (24 校 26 学科)

(3) 欠員数 248 人 (329 人)

(4) 学科別・昼夜別倍率

前期選抜	昼夜 \ 学科	普 通	工 業	商 業	合 計	昨年の合計
	夜 間	0.97	1.38	0.89	1.05	0.98
	合 計	1.23	1.38	0.89	1.22	1.19

後期選抜	昼夜 \ 学科	普 通	工 業	商 業	合 計	昨年の合計
	夜 間	0.60	0.84	0.57	0.64	0.52
	合 計	0.81	0.84	0.57	0.79	0.67

※ 前期選抜の定員枠は、昼間は8割程度、夜間は7割程度であるため、前期選抜の倍率は程度である。

2 入学検査

(1) 作文及び面接を実施した学校・学科

31 校 37 学科 (全校・全学科) (31 校 36 学科 (全校・全学科))

(2) 基礎学力検査を実施しない学校・学科

前期選抜 7 校 7 学科 (8 校 8 学科)
 後期選抜 9 校 9 学科 (10 校 10 学科)

(3) 基礎学力検査を実施した学校・学科

前期選抜 25 校 30 学科 (24 校 28 学科)
 後期選抜 23 校 28 学科 (22 校 26 学科)

〈 通 信 制 課 程 〉

1 志願者数等

学 科	募集人員	志願者数		合格者数		昨 年	
						志願者数	合格者数
普 通	約560人	前期選抜	188人	前期選抜	181人	191人	186人
		後期選抜	116	後期選抜	109	114	113
		転編入学	174	転編入学	167	197	188
		合 計	478人	合 計	457人	502人	487人

2 入学検査

前期選抜、後期選抜ともに学力検査を行わず、作文及び面接を実施した。

(参考1) 評定分布等

教科ごとの評定分布割合及び評定平均値 (愛知県内の全公立中学校)

教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術・ 家庭	外国語	全 体
評定5	12.1%	13.9%	13.3%	13.2%	11.4%	10.8%	10.2%	11.2%	14.5%	12.3% (12.4)
評定4	20.6	20.5	21.6	20.7	21.9	22.7	23.4	21.5	19.1	21.3 (21.4)
評定3	44.4	41.7	40.0	41.7	46.9	47.5	48.2	47.4	39.8	44.2 (43.6)
評定2	15.0	15.3	15.7	16.2	13.4	13.0	12.3	13.1	17.2	14.6 (14.8)
評定1	7.9	8.6	9.4	8.2	6.4	6.0	5.9	6.8	9.4	7.6 (7.8)
評 定 平均値	3.14 (3.14)	3.16 (3.16)	3.14 (3.14)	3.14 (3.14)	3.18 (3.19)	3.19 (3.20)	3.20 (3.19)	3.17 (3.17)	3.12 (3.12)	3.16 (3.16)

※ () 内は平成28年度入学者選抜の数値

(参考2) 長期欠席者等にかかる選抜方法

	申請者数(延べ人数)	合格者数(実人数)	昨 年	
			申請者数	合格者数
全日制課程	72人	35人	60人	25人
定時制課程	160	121	93	73
通信制課程	17	17	6	6

(参考3) 定時制課程前期選抜における外国人生徒等にかかる受検上の配慮

昼 夜	申請者数	合格者数
昼 間	25人	15人
夜 間	88	74
合 計	113人	89人

新しい入学者選抜制度に関するアンケート結果

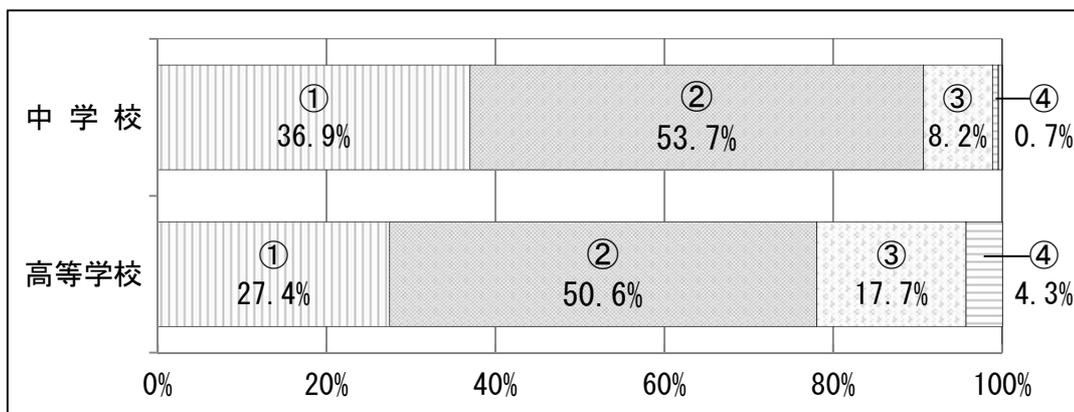
実施時期 平成 29 年 3 月

実施対象 公立中学校 417 校及び公立高等学校 164 校の校長

質問 1 新しい群及びグループ分けについて

(1) 次の①から④までのうち、校長先生のお考えに最も近いものを一つ選んで、その番号をお答えください。

①よい ②どちらかと言えばよい ③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答
中学校	154 校	224 校	34 校	3 校	2 校
高等学校	45 校	83 校	29 校	7 校	0 校

(2) 自由記述（主な意見）

中学校

- ・尾張学区、三河学区ともに 2 校の組み合わせの幅が広がった。
- ・尾張学区については 1・2 群共通校をさらに増やすなど、学校選択の幅を一層拡大することが望ましい。
- ・学校選択の幅が広がり、一部の高校に志願者が集中することが心配である。
- ・専門学科で 2 校を組み合わせることの難しい地域がある。

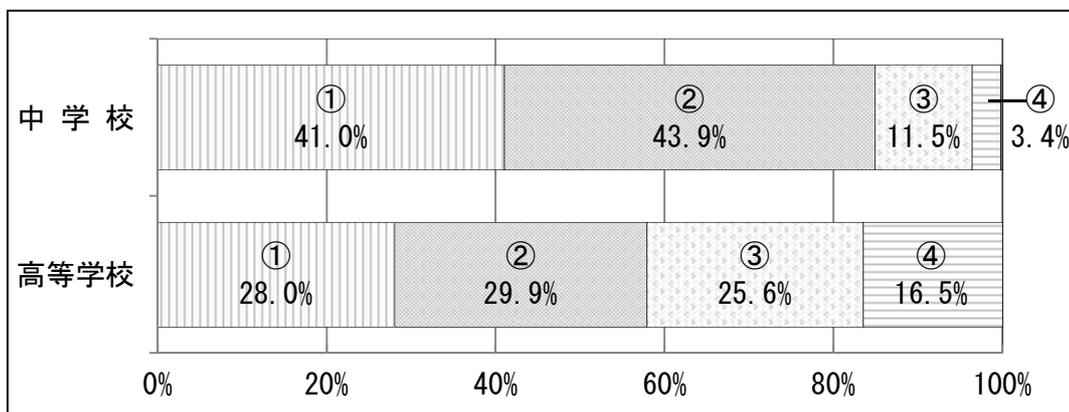
高等学校

- ・尾張学区、三河学区ともに 2 校の組み合わせの幅が広がった。
- ・尾張学区についても三河学区と同様、学校選択の幅を拡大することが望ましい。
- ・専門学科の 2 校の組み合わせに配慮してグループ分けを改善する必要がある。

質問2 推薦選抜等を一般選抜の日程に取り込んだ入試日程について

(1) 次の①から④までのうち、校長先生のお考えに最も近いものを一つ選んで、その番号をお答えください。

①よい ②どちらかと言えばよい ③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答
中学校	171校	183校	48校	14校	1校
高等学校	46校	49校	42校	27校	0校

(2) 自由記述（主な意見）

中学校

- ・卒業式まで緊張感を保って落ち着いた学校生活を送らせることができた。
- ・推薦選抜、一般選抜にかかわらず、公立高校を目指す生徒が最後まで真剣に学習に取り組めた。
- ・推薦選抜を受検するメリットが薄れたと感じる生徒・保護者が多くみられた。
- ・推薦選抜を受検する生徒は面接と学力検査の準備の両立に苦労した。

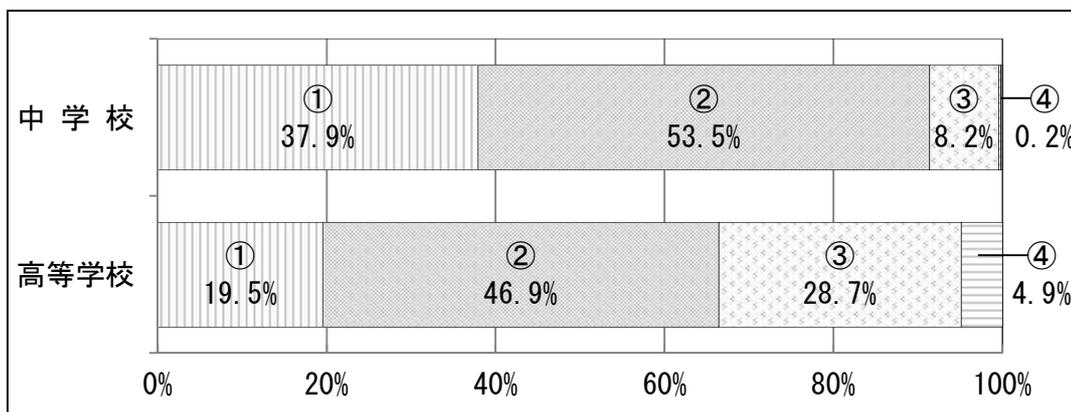
高等学校

- ・2月に落ち着いて教育活動に取り組めるようになった。
- ・志願者全員が3月まで学習に取り組むので学力の維持・向上につながる。
- ・専門学科を中心に推薦選抜の志願者が減少した。
- ・入学者選抜の業務が短期間に集中し、必要な人員と作業日程の確保に苦労した。

質問3 学力検査問題について

(1) 次の①から④までのうち、校長先生のお考えに最も近いものを一つ選んで、その番号をお答えください。

①よい ②どちらかと言えばよい ③どちらかと言えばよくない ④よくない



	①	②	③	④	無答
中学校	158校	223校	34校	1校	1校
高等学校	32校	77校	47校	8校	0校

(2) 自由記述（主な意見）

中学校

- ・思考力、判断力、表現力等を含めた総合的な学力を測る問題が増えた。
- ・授業の改善と生徒の学力向上につながる。
- ・やや難易度が高いと感じられる問題が一部にあった。

高等学校

- ・受検者の学力を的確に把握し、有効な選抜資料とすることができる。
- ・中学校だけでなく高等学校においても授業や学習評価の改善につながる。
- ・国語の文章要約問題と外国語（英語）の文章表現問題の採点に時間がかかった。

質問4 その他

その他、新しい入学者選抜制度についての自由記述（主な意見）

中学校

- ・インフルエンザが流行しやすい時期であるので追検査があると安心できる。
- ・私立高校の合格者発表後、公立高校出願までの日数を確保する必要がある。

高等学校

- ・文章表現問題を適切に採点するためには十分な時間が必要であり、外国語（英語）の学力検査は少しでも早い時間帯に実施してほしい。

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議開催要綱

第1 趣 旨

愛知県公立高等学校入学者選抜方法について研究協議をするため、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（以下会議という。）を随時開催する。

第2 構 成

会議は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学識経験者、一般有識者
- (2) 公立高等学校の校長及び教諭
- (3) 市町村立小中学校の校長及び教諭
- (4) 市町村教育委員会関係者
- (5) P T A関係者

第3 議長及び副議長

- (1) 会議には議長及び副議長をおく。
- (2) 議長及び副議長は、委員のうちから互選する。
- (3) 議長は会議を主宰する。
- (4) 副議長は議長を補佐し、議長に事故あるときはその職務を代理する。

第4 会議の招集

会議は県教育委員会教育長が招集する。

第5 幹 事

会議には幹事をおく。幹事は会議の事務について委員を助ける。

第6 専 門 員

会議には、専門の事項を調査する必要があるときは専門員をおくことができる。

第7 意見聴取

会議は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見を聞くことができる。

第8 会議の公開

会議は、議長の判断により、会議の一部又は全部を公開しないことができる。会議を公開する際の傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

第9 会 議 録

会議は、会議録を作成し、その保存期間は5年間とする。

第10 雑 則

この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は県教育委員会教育長が定める。

附 則

この要綱は、昭和48年5月11日から実施する。

附 則

この要綱は、平成14年4月26日から実施する。

附 則

この要綱は、平成26年4月25日から実施する。

附 則

この要綱は、平成27年4月28日から実施する。

平成29年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議

委員名簿（順不同・敬称略）

中京大学現代社会学部長（議長）	村上 隆
南山大学教職センター・理工学部教授（副議長）	岡田 順一
愛知教育大学教職大学院教授	佐藤 洋一
愛知教育大学教育学部教授	土屋 武志
学校法人愛知享栄学園理事長	長谷川 信孝
トヨタ自動車株式会社人事部名古屋人事室長	逸見 浩和
名古屋銀行経営企画部人事グループ副業務役	川田 絵里
愛知県地域婦人団体連絡協議会長	村上 千代子
愛知県公立高等学校PTA連合会長	酒井 延直
愛知県小中学校PTA連絡協議会長	平岡 将暢
名古屋市教育委員会学校教育部長	相川 保敏
みよし市教育委員会教育長	今瀬 良江
長久手市教育委員会教育長	堀田 まゆみ
愛知県立旭丘高等学校長	笹尾 幸夫
愛知県立千種高等学校長	小島 伸之
名古屋市立向陽高等学校長	鯉沼 良久
愛知県立古知野高等学校長	嶋田 麻知代
西尾市立西尾小学校長	稲垣 寿
名古屋市立名城小学校長	川北 貴之
名古屋市立豊国中学校長	宇佐美 博
愛西市立佐織中学校長	片山 幸毅
愛知県立長久手高等学校教諭	鈴村 紀代子
名古屋市立工業高等学校教諭	齋藤 大地
半田市立乙川中学校教諭	森田 慎也
名古屋市立道徳小学校教諭	横山 大樹